

【背景】

工大二高では、新聞や本など読む学習活動全体に「読むサプリ」という名前をつけて呼んでいます。（図1）。

最近、生徒の読解力の低下を指摘する声が、国語のみならず各教科の先生方から挙がってきました。例えば、数学や理科の問題で、書かれている状況を図にしてイメージできない、とか、実験の様子を順序立てて考え、必要な公式や知識を適所で使うことができないといった具合です。つまり、筋道を立てて論理的に物事を考える力が不足しているということです。このような現状から、基礎学力のために「読む」ことの指導に対する全校的取り組みが必要だと感じていました。

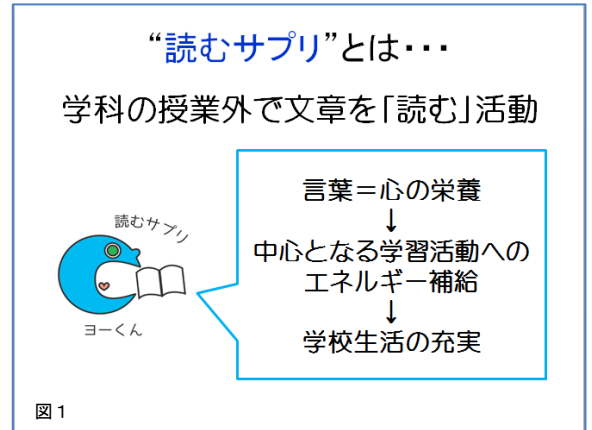
【実践とその効果】

本校では、1年前から朝の登校時間を早め、朝の活動が充実しました。現在朝の10分間を、読むサプリタイムとして、月曜から金曜まで確保しています。（図2）

水曜コラムは、生徒にもわかりやすいように、またどの先生でも、どの学年でも続けやすいように、シンプルです。週替わりに学年の先生が交代で記事選びを担当し、選んだ記事を学年全生徒に配って、読むという形です。学年ごとにピックアップした記事を印刷したプリントが、水曜日の朝配られ、1・2年生は読んだ感想・意見をまとめます。3年生は社説中心に、要約する課題もプラスしています（図3）。大学の推薦入試などに対応するための配慮です。プリントは帰りのHRまでに完成させ、担任に提出します。回収後、担任の先生は目を通し、コメントを書いて生徒に返却します。生徒はファイルに綴じて保管します。

各担任の先生から実践を振り返ってコメントを伺ったところ、評価できる点として、生徒が時事問題に触れ、視野を広げるのに役立っている、文章を読んだり書いたりすることが身近になり、抵抗が少なくなっている、などの意見が複数寄せられました。教員側も、記事を探す時点で教員も日頃から情報収集の習慣が付き、新たな知識が得られる、生徒の意見を読むことで、新たな発見があり、生徒理解に繋がるなど、効果を感じている方が多くいらっしゃいます。

一方問題点としては、課題を与える形なので、ただ受身にこなすだけになってしまう時があり、意欲や

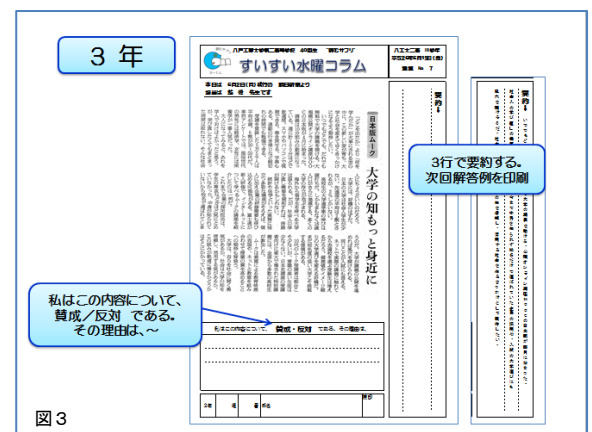


朝の10分間を活用

- 朝読書の開始
- 8:15～8:25(10分)全学年共通

月	火	水	木	金
朝読書	火曜テスト	水曜コラム	朝読書	朝読書

図2



能力のできる生徒とできない生徒がはっきり分かれるといったことが挙げられました。時間の都合上細かい指導までできない、能力の差に応じて個々のアドバイスがもっと必要、学年間（進級と難度）の調整が行われていない、などが教員側の悩みです。

水曜コラムはある学年の活動から全校に広まり、試行錯誤の中で5年ほど継続してきました。ここ数年で、読むことへの抵抗感が軽減し、考え方がしっかりしてきた、小論文学習とリンクして、文章を書く能力の向上や社会情勢に関心を持つ生徒が増えてきた、などの手応えを感じている先生が多くいます。数字などははっきり目に見える形で短期的に成果が確認できるわけではありませんが、長く続けることで得られる効果を期待し、子どもたちの一生の財産として新聞を読む取り組みを続けていきたいと思えます。今後は、生徒に記事を選んでもらったり、グループで意見を読み合ったり、記事を選んだりする機会を取り入れられたりと、能動的かつ効果的な新聞活用の取り組みをさらに研究していきます。

【NIEから他分野への展開】

本校では、他にも小論文指導、医療関係の記事を読んで学習する「MSM」(Medical Study Meeting の頭文字)、大学入試でプレゼンテーションやディベートなどが課される生徒を対象にした能動的思考トレーニング「テキパ」など、常時新聞を取り入れた独自の学習プログラムを行っています。さらに、これまで課外で行われていた取り組みが、総合学習など、徐々に授業に還元される形で浸透し、新聞を使って生徒の能力や教養を育てようという機運が全校的に高まっていると感じます。NIEで試みてきたことが、

学力のみならず、さまざまな学習活動への見えない原動力、まさに「サプリ」となって、たとえば学外学習、ボランティアなどに積極的に取り組む学校の土台となっているのではと思います。

NIEは、新聞に書かれている文字をただ追い、情報を受け取るだけでなく、書かれていることから何かを得る、学び取るために、咀嚼し反芻し、自分を没入させて、耕していく作業が含まれます。その営みは、記事の内容と自分との関係、記事の中に出てくる人物、団体や国と自分との関係、その記事を読んで思ったことを伝え合う仲間同士の関係、そこに助言を与え、思いに耳を傾ける教員と生徒の関係など、様々な人々、ものごと、社会へつながっていきます。このつながりによって、生徒は日々の学習活動に意欲を見出し、エネルギーを注げるようになるベースができるのでは、と考えます。活動のエネルギーとなる、NIEは「サプリ」です(図4)。補助的にプラスすることで、日々の学習活動に活力が出て、さらに学外学習・ボランティア・海外研修などの取り組みに積極的にエネルギーを注ぐことができ、生徒がいきいきとしてくる。生徒が変わることで学校もアクティブで、いろいろなことへ楽しみながら本気で取り組む校風が変わっていく、という好循環がもたらされています。

これからも、チャレンジし続ける、より学問の高みへと昇ろうとする生徒たちを応援する取り組みへ、ますます発展していければと思います。

